

エンテベ空港の7日間 (2018)

ENTEBBE
7 DAYS IN ENTEBBE

メディア 映画

ジャンル サスペンス ドラマ

製作国 イギリス/アメリカ/フランス/マルタ

色彩 B&W/C

時間 107分

初公開日 2019/10/04

公開情報 キノフィルムズ

映倫 G

【キャッチコピー】

“奇跡”と呼ばれた人質救出作戦――
その成功にいたる知られざる真実とは!?

【解説】

1976年にイスラエルで起きた実在のハイジャック事件を「エリート・スクワッド」「ロボコップ」のジョゼ・パヂーリャ監督が映画化した実録サスペンス。7日間にわたった人質解放交渉と奇跡の救出劇として知られる“サンダーボルト作戦”の全貌を、ハイジャック犯とイスラエル政府それぞれの内部での葛藤と思惑が複雑に交錯する人間ドラマとともに描き出す。出演はハイジャック犯にロザムンド・パイクとダニエル・ブリュール、イスラエル政府関係者にエディ・マーサンとリオル・アシュケナージ。

1976年6月27日。イスラエルのテルアビブからパリへ向けて出発したエールフランス139便が、4人のハイジャック犯によって乗っ取られる事件が発生する。犯人のうち2人はパレスチナ人で、残る2人はパレスチナに同調する西ドイツの過激派組織メンバー、ヴィルフリード・ボーゼとブリギッテ・クールマンと判明する。やがて飛行機はハイジャックを支援するアミン大統領が待つウガンダのエンテベ空港へ降り立ち、人質たちは空港ビルの旧ターミナルに監禁される。犯人側から服役中の仲間たちの釈放などの要求を突きつけられたイスラエル政府では、交渉止むなしの立場に傾くラビン首相とそれに断固反対するペレス国防大臣の対立が表面化していく。そして交渉による人質解放の道を探りつつ、軍事的解決へ向けた準備が着々と進められていくのだったが…。

【クレジット】

監督	ジョゼ・パヂーリャ	Jose Padilha
製作	ティム・ビーヴァン	Tim Bevan
	エリック・フェルナー	Eric Fellner
	ケイト・ソロモン	Kate Solomon
	ミシェル・ライト	Michelle Wright
	ロン・ハルパーン	Ron Halpern
製作総指揮	ジェフ・スコール	Jeff Skoll
	ジョナサン・キング	Jonathan King
	オリヴィエ・クールソン	Olivier Courson
	ジャン＝クロード・ダルモン	Jean-Claude Darmon
	アンジェラ・モリソン	Angela Morrison
	ジョー・バーン	Jo Burn
	ライザ・チェイシン	Liza Chasin

脚本	グレゴリー・バーク	Gregory Burke	
撮影	ルラ・カルヴァーリョ	Lula Carvalho	
プロダクションデザイン	ケイヴ・クイン	Kave Quinn	
衣装デザイン	ビナ・ダイヘレル	Bina Daigeler	
編集	ダニエル・レゼンデ	Daniel Rezende	
音楽	ホドリゴ・アマランチ	Rodrigo Amarante	
出演	ロザムンド・パイク	Rosamund Pike	ブリギッテ・クールマン
	ダニエル・ブリュール	Daniel Bruhl	ヴィルフリード・ボーゼ
	エディ・マーサン	Eddie Marsan	シモン・ペレス
	リオル・アシュケナージ	Lior Ashkenazi	イツハク・ラビン
	ドゥニ・メノーシェ	Denis Menochet	ジャック・ルモワーヌ
	ベン・シュネッツァー	Ben Schnetzer	ジーヴ・ヒルシュ
	ノンソー・アノジー	Nonso Anozie	アミン大統領
	アンヘル・ボナニ	Angel Bonanni	ヨナタン・ネタニヤフ